



# ロータリーを通じて 世界理解と平和を



WORLD UNDERSTANDING & PEACE THROUGH ROTARY

会長 新穂光一郎 幹事 藤川享胤 副会長・クラブ奉仕 内山喜一 職業奉仕 高岸三雄 社会奉仕 川村徳男 国際奉仕 齋藤利男 青少年奉仕 佐藤順治

出席報告：会員 73 名 出席 59 名 出席率 80.82 % 前回出席率 89.04 % 修正出席 70 名 確定出席率 95.89 %

## ≡庄内の発展には身を切る苦しさに耐える事も必要ではないか≡

### ◎向上心はどの地域も旺盛

東北地方は今、高速交通の時代を迎え、わが山形県においても産業面、生活面を通じ諸々のニーズの高度化、多様化が進んでおります。そのような中で県下のどの地域においても、わが地域が一番遅れをきたしているとして、他を羨み、又他がそうなら、それはわが方の地域に早く施されるべきであるといった姿での、強い向上心があります。

わが庄内の場合は、内陸偏重の指摘が強烈にあるわけですが、県下どの地域においても「隣の芝生」的な状態にあるのが実態であります。その中で鶴岡周辺の特徴は、反対の時間が長く後追いで、苦情文句が多く感じられます。

これからは、先に物言う地方になり、反対は言い合い乍らも、情報や環境を十分理解し消化して、未来を考え、前進・開発する姿で「まとまる地域」にならなければいけないと思うのであります。「変化なくして発展なし」と考えるのでありますが如何でありましょうか？

### ◎本県も高速交通時代を迎える

高齢化社会も想像以上の高速でやってきますが、昭和57年は本県における高速交通その元年であり、特に観光元年と言えらると思うのであります。既成概念にこだわらずに如何にして刷新して行くかであります。待望の笹谷トンネルと月山新道の開通をはじめ、道路の改良率と舗装率が飛躍的に伸びた、県下道路網初めての春を、来年は迎えるのであります。

又、国鉄重点販売地域の指定を5、6、7、8月として、観光客誘致に取り組んでおり、又東北・上越新幹線の開業であります。これら大きく変化する時、環境と調和した活力ある地域社会づくりに乗り遅れないよう想像の世界を広げ、各団



県会議員  
佐藤正光氏

体・各機関のリーダーは創造に費す時間を持たなければならないと考えられます。新しく作り出す時であり、未来への挑戦の時であります。

### ◎60年までが次の時代を決める

庄内空港の必要性については今更申すまでもありませんが、総論賛成、各論反対にならないように、英知と勇気と情熱を傾注して欲しいのであります。

・県の大型長期プロジェクトには、庄内地方に位置するものが実に多く、全てが有機的につながりがあるのです。

- ① 月山多目的ダム
- ② 東北横断自動車道酒田線
- ③ 庄内空港建設
- ④ 67国体の開催
- ⑤ 県立総合病院の新設
- ⑥ 庄内に大学の誘致
- ⑦ メカトロニクス工業等、先端的技術産業地域形成の推進等々があります。

21世紀を見通した長期的展望にたつての判断を強く求められる大事な時であります。

### ◎美田を活かし農業の真の豊かさを求める

本県水稲の作柄は異常気象・異常低温により、作況も1等米比率も極端に低下している。そこで稲作農業に左右される地域経済だけに農業を見直せとの声が高まっています。さて、良く耳にする言葉に「米あるが故に人貧し」であります。

そこで、経済的にも精神的にも豊かになるには、農業の見直し方であります。いつまでも農業の出来、不出来で左右される地域であってはならない。美田もある程度の弾力的な考え方が必要であり、価値ある美田をつぶしつつも、それ以上の強

庄内に空港を建設しましょう

## 「社是・社訓集」

中江 哲夫 君



大多数の企業は自分の会社の「経営方針」なり「社是」・「社訓」を持ち、それを明文化して企業目標達成への意志結集を図っておられる。我が山形支社でこのたび、約350社のご協力を得て「山形県内企業社是・社訓集」を刊行、このほど出来上がった。創業社長の情勢が伝わってくるもの、業種の特徴を打ち出したもの等いろいろあるが、いずれにしろ企業活動を通じて社会に貢献せんとする、企業人としての「生きざま」を強く感じさせられる。

い地域をめざしたいものであります。本当に豊かな農業地帯をつくりたいものであります。農・工・観光・商業等総合的にバランスある田園都市づくりは可能と思うのであります。どんなものでありましょか？

### ◎伸び切った状態から

次なるスタートは出来ない

第一臨調は行財政改革として、最初に財が大きく打ち出されたわけですが続いて、来年6月頃には第二臨調が、本格的に行政改革に取り組むことでありましょ。いよいよ“外濠”から“本丸”に迫るわけであり、補助金の削減～人員の合理化～中央省庁の統廃合～出先機関の整理統合と進んで行くものと考えられます。そして次なるスタートへと整頓・準備されて行くのでありましょ。その期間は長引くようですが、如何に耐えて行くかが与えられた課題であると思っております。

## 例 会 メ モ

### ◎台中港区R.Cよりの礼状

親愛なる鶴岡ロータリークラブ  
 会長 新穂光一郎 殿  
 会員 御一同様

この度貴会の表敬訪問に細心の計画又心あたたまる盛大な歓迎会と過分な記念品をいただき心より感謝いたします。又連絡の為会長様・幹事様がわざわざ静岡日本平ロータリークラブの式典においてになった事は、新しい姉妹クラブになった日本平クラブがより一層の認識と親愛の度を深める事になると思っております。26日夜、全員元気で帰国いたしました。

みんなと一緒にすごした時間は短いですが一刻千金と申しましょか本当に貴い集いでした。生

## 「姉妹クラブ考」

斎藤 栄作 君



鶴岡ロータリークラブには現在、3姉妹クラブがありいずれも歴史的な背景があって今日までお互に親善の実を挙げて来ました。しかし長い年月の中には当初の関係者が少なくなったこともあって、ニューブランズ・ウィックなどは次第に影が薄くなって名前だけの姉妹クラブとなった感がいたします。最初から関係した者の一人として相手に申し訳ないような気がいたしますので来年は是非訪問して友情を暖めたいと考えて居ります。

友情親善も人が変り、年が移って永久ということとは有り得ないのではないか。台中港区クラブとの関係のように3年とか5年とかで盟約し直すことが適切であって相手クラブに対しても礼を失わない方法であるように思われてならない。

涯わすれないと思います。又中江様には特別の御料理に、張先生には寒い処を自分の車の運転で山形空港までお送り下さり感謝に堪えません。この皆様の貴い友情を胸に抱きしめてロータリーの主旨、社会奉仕、国際奉仕に努力したいと思っております。この度は誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。真冬も迫り、お正月も後1ヶ月に近づいてまいりました。益々お忙しくなるとは思いますが皆様御健康に注意なされ、御事業の発展に邁進されるよう御祈念し帰国の御挨拶とさせていただきます。

貴会の御繁栄を祝福いたします。 敬具

台中港区扶輪社

社長 曾 隆 基

秘書 楊 添 福

国際奉仕委員長 蔡 永 銘

1981年11月30日

- 今日12月8日は太平洋戦争開戦の日であります。あれから40年経過した今もアメリカではリメンバーパールハーバーと云われて居るようです。感無量です。
- (副会長)6日ボーイスカウト山形51団の会合で5名の方々と共に感謝状を受けて来ました。
- 次期副幹事に三浦梯三さんを指名いたします。よろしく願います。

## ス マ イ ル

上野君の令息、一橋大卒後大蔵省に就職内定との事オメデトウ。

## ビ ジ タ ー

(余目R.C) 佐藤孝二郎君

(今週の担当者 石井敬三)